

「土砂災害に警戒を」

宮城県 名取市立第二中学校 2年 高橋^{たかはし} さやか

今年の7月上旬、九州地方で、記録的な大雨が降り、大規模な土砂災害が起きました。これによってたくさんの家屋が流され、また、30人以上の方が亡くなりました。その光景に、私は、どうしてこんなことになってしまったのか、被害を軽減することはできなかったのかと考え、土砂災害の猛威に鳥肌がたつような恐ろしさを感じました。

福島県の南会津にある私の祖父の実家も、6年前、土砂災害による被害を受けました。台風による雨の影響で裏山が崩れてしまったのです。その当時、家には誰もいなかったのも、怪我人こそなかったものの、祖父や母が大事にしていた品々が土砂につかってしまったり、部屋がごちゃごちゃになって柱が半分見えるだけのひどい状態になってしまったりしました。

その当時、まだ小学2年生だった私は、その光景を目にするまでは、あまり大事には考えていませんでした。でも、祖父の実家に足を踏み入れた瞬間、事の重大さに気付き、子どもながらに足がすくんだことが忘れられません。

私は、このような土砂災害の被害を少しでも和らげる方法はないか、真剣に考えてみました。自然災害なので、完全に無くすことはできないかもしれませんが、少しでも防ぐことはできると思い、自分たちでもできることはないか、考えてみようと思ったのです。その結果、有効な対策が4つ見つかりました。

まず1つ目は、土砂災害や地震などの災害が起きた際に、どこへ避難するか、緊急時の食料は保存してあるかなどを、定期的に家族や近所の人と確認しておくことです。

普通のことのように思いますが、案外やっていない家庭も少なくないのではないかと思います。点検をしているのとしていないのとでは、いざ災害が起こったときに、助かる確率がだいぶ違ってくるはずです。

2つ目は、自分の住んでいる地域が、土砂災害危険箇所であるか、またどのくらい危険であるかということを知っておくことです。

これは、いざ災害が起きたときの対策を考えるときに、とても役に立つ情報だと思います。まずはこの情報を確認しておくことがとても大切だと思います。

3つ目は、雨が降り出したなら、土砂災害注意報や警報に注意しておくことです。

大雨による土砂災害発生危険度が高まったときに、自分たちで避難するときの参考になるとても大事な情報なので、しっかり確認しておくことが大切だと考えます。

4つ目は、土砂災害の前兆現象に注意することです。

毎日チェックする必要は無いかもしれませんが、雨の日などが続き、少し危ないと感じたときは、こまめにチェックしておく方が良いかもしれません。

調べてみると、土砂災害には主に3つの種類があり、前兆となる現象もそれぞれ異なることが分かりました。

まず、がけ崩れの前兆としては、地鳴りがする、がけから水が湧き出る、などがあげられます。また、地すべりの前兆は樹木が傾く、地鳴りや山鳴りがするなどで、どれも自分たちで確認できそうなものばかりです。

そして、土砂災害の3種類の中で一番多い被害が土石流で、その前兆現象は、山鳴りがする、腐った土の匂いがする、降雨が続くのに水位が下がることなどです。

このように、土砂災害への対策はたくさんあることが分かりましたが、一番大事なのは、土砂災害が起こりそうなときには警戒を怠らず、すぐ避難するということだと思います。

これだけで、命が救われます。逃げることなんて当たり前、と思うかもしれませんが、案外すぐに動かない人もいると思われれます。

「まだ大丈夫」ではなく、大丈夫なうちに避難しておくことが、一番の安全なのです。

現在も祖父は南会津に住んでいます。祖父の実家のすぐ近くにある山の前には、土石流を防ぐための砂防施設が造られています。6年かけてこの砂防施設を造り、今年の9月末にようやく完成する予定なのだそうです。

自然災害との闘いはこれからも続きます。

土砂災害がなくなり、ひとつでも多くの尊い命が失われないことを願ってやみません。